

だんだん便り

第12号

2018年10月10日

一般社団法人だんだん会

408-0035 山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

- ・法人本部 0551-45-9566
- ・地域看護センターあんあん 0551-30-7505
- ・定期巡回てくてく24 0551-30-7787
- ・オレンジサロンわいわい白州・長坂 0551-45-9566

-
- ・グループホームわいわい白州 0551-30-7566

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023



十月に入ると八ヶ岳の紅葉も盛り、いろいろな色で楽しませてくれます。

ただ、めっきり早くなった夕暮れ時は何となく寂しくなりますね。

そんな時、道の向こうの窓から漏れる明かりが暖かな気持ちにさせてくれます。

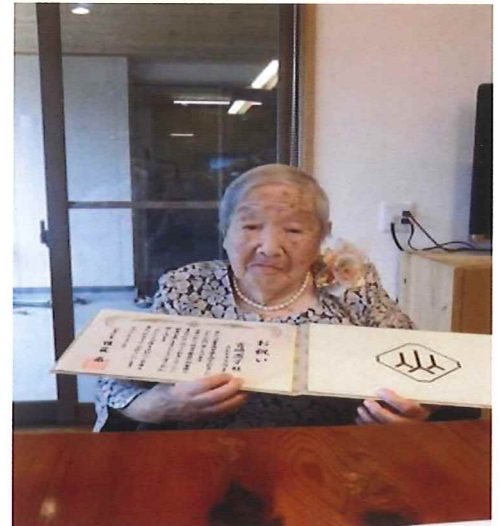
渡辺秀正

グループホームわいわい白州

9月の”尾白”、 百寿祝い・花火

尾白職員 鈴木秀明

☆祝☆100歳！！ おめでとうございます。内閣総理大臣からのお祝い状と山梨県知事からの銀杯をいただきました。ご家族と受け取りました。



★夏の思い出に花火をしました★ 皆さん笑顔が絶えません😊



新人職員です！



こんにちは。8月から、わいわい白州尾白で働かせて頂くことになりました、鈴木秀明と申します。

約2ヶ月経過しますが、入居者にとって住んでいた場所や状態が変わっても、それまでの人生をできる限り再現し、願いが叶う場だと感じています。それは、毎日楽しく笑って、その時食べたい物を食べて、行きたいところに行き、やりたいことができる等、周りの人と変わらず伸び伸びと暮らせることだと思います。

そのことを実現する支援をさせていただく私自身とても難しいことだと痛感していますが入居者のために全力で頑張ろうと思っています。まだまだ未熟ではありますが、今後ともよろしくお願い致します。

日本赤十字看護大学研修報告

日本赤十字看護大学大学院 地域看護学領域の学生6名がだんだん会で研修させていただきました！！

☆研修スケジュール☆

9月20日（木）

オレンジサロン長坂に参加

グループホームわいわい白州の見学

シェアハウス山吹の見学

中嶋登美子理事の講義

宮崎和加子理事長の講義

9月21日（金）

地域看護センターあんあん

定期巡回てくてく24

同行訪問



自然と私たちも笑顔になりました♪

《住民の笑顔があふれる場》

毎月2回開催されているオレンジサロン長坂に参加させていただきました。参加者の皆さんと歓談したり、焼肉ランチ（外食イベント）をご一緒させていただきました。参加者の皆さんから「初めて来たけど交流の場が持てた。」「普段一人でお昼ご飯を食べていてすごく寂しいけど、みんなとこうやって話したりできるのが幸せ。」などのお声が飛び交い、皆さんが本当に幸せそうにいきいきとお話されているのが印象的でした。また、同じくらい職員さんの笑顔があふれていました！つながりを感じながら、心から解放され、生きがいとなる場所が地域に必要であることを体感しました。



いざ、看護師・介護士さんと一緒に訪問です！

私たちが温かく迎え入れてくださり、ありがとうございました。ほんのひと時でしたが、皆さんと一緒に時間を過せ、嬉しかったです。また、成長して帰ってきます！！

《住民を支える応援団！！》

2日間の濃密な研修を通し、住民の主体性を支援すること、看護のプロと介護のプロが手をとりあって住民を支えることが、大切な看護師の役割であると実感しました。そのためにも、枠にとらわれない自由な発想力や柔軟性、人間力を培い、自分たちが誇れる看護実践を積み重ねていけるように、日々精進してまいります。



約束

地域看護センターあんあん 看護師 浅見玲子

一本の電話から

雪の降る寒い朝、事務所に一本の電話がありました。県を超え約 60 km離れた長野県の佐久医療センターの地域連携室のソーシャルワーカーからです。

「息子さんの卒業式にどうしても出席したいという患者さんがいます。病状的には余命短くあまり時間がありません。移動中亡くなる可能性もあります。そちらの訪問看護ステーションで受けて頂けますか？」

私と所長(樋川)はすぐに病院に出向きました。

55 歳、がん末期・・・

新井和弘さん(仮名)55 歳。食道がんの再発で治療を行っていましたが、限界がきていました。気管切開をして気道を確保、酸素吸入、胆管チューブの挿入、腸瘻(栄養補給のためのもの)、尿道カテーテル、中心静脈に血管確保のルート、持続的麻薬注入器と、たくさんの医療機器がついていました。「いつ退院しても大丈夫ですよ。私たちがお受けします」と、私たち看護師(地域を守る)が答えました。

病院のスタッフと話し合いを行い、緊急時の対応などについて合意形成、すぐに地域の在宅医師にも連携をとりました。

小学校にも訪問しました。ご友人とケアマネージャー、看護師が先生方と打ち合わせをし、式の途中の急変時の対応や吸引のための電源確保の位置、寒さ対策・・・など綿密な計画を立てて万全の備えをしていました。

卒業式の前日、自宅へ退院！

新井さんの次男の小学校の卒業式の前日、民間救急車に病院看護師が妻と同乗して自宅に到着。しかし、長い時間の車での移動のためか、新井さんは、意識レベルが低下して血圧も測定できなくなりました。駆けつけた在宅医師が「今夜亡くなるかも・・・」とご家族に宣告されました。せっかく退院したのに、卒業式に出席できないかもしれないと、みんながあきらめざるをえませんでした。

奇跡か！

ところが、新井さんは翌朝目を覚ましたのです！意識が戻り、「卒業式にはいきます」とはっきりと意思表示！それから多くの協力者が打ち合わせどおりに動き始め小雨の冷たい日でしたが学校に向かいました。

学校に入ってからハハラでした。卒業生の入場を待つあいだは、常にお声掛けして刺激をしていないと傾眠状態となり無呼吸も頻発するという状態。正直、付き添いながら呼吸停止してしまうのではと頭がよぎり退席の時期など悩みました。

感動的な卒業式

卒業生入場となり次男の信人君(仮名)が入場してくると、新井さんはぱっと目を見開き覚醒されたのです。校長先生からの卒業証書授与、受け取った信人君は、みんなの前でこうあいさつしました。「僕は将来優しい人になりたいです。やさしい人になっていろんな人を助けたいです」と。(私は、涙がこぼれそうになりました)ご両親のお人柄が想像できる素敵なあいさつでした。

それから花束とお手紙をご両親のもとに信人君が届けました。その間新井さんは奥様とならんでしっかりと息子さんを見つめていらっしゃいました。

ここまでで限界と判断した私は新井さんに「さあ帰りましょうか」とお声をかけました。すると新井さんは、首を振りました。次の校長先生のご挨拶を聞きたいと。

約1時間の式への参加でしたが、その間新井さんご夫婦の後ろでじっと控え、父親の様子をたくましい表情で見守る長男の真治君(仮名)の姿がとても印象的でした。

卒業式には参加するという信人さんとの約束を、新井さんはちゃんと果たしたのです。

その後

卒業式を終えると、在宅医師が連日訪問して、ご本人の状態を丁寧にご家族に説明しながら、段階をおって腸瘻からの栄養や点滴の内容と量、麻薬の量の調整などをして最大限苦痛のない状態で時間が過ごせるようにしました。

看護師も24時間ケアする奥さんの由美子さん(仮名)を支えるべく24時間すぐに訪問できる体制をとり伴にケアしました。

新井さんは、日中はほとんど覚醒していて、多くのご友人がベッドのまわりを囲みジョークを飛ばしあって笑ったり好きな音楽を流してもらったりという具合でした。いまでもよく笑っていた新井さんのお姿が浮かんできます。

由美さんが吸引を

印象的だったのは、由美子さんの吸引の件です。新井さんは由美子さんに吸引してもらうのは嫌だと病院でも言っていたようですが、帰宅して3日目でしたか、「新井さん、そろそろ奥様の吸引は免許皆伝でよろしいのでは？」という、笑って OK サインをなされたことです。由美子さんも一日一日といねいにケアをなさるごとに自信を持たれていきました。

二つ目の男同士の約束

亡くなる前日の夜、由美子さんに息子さんたちにどのように臨終に近いことを伝えますか？とお尋ねすると「ちゃんと事実を話して一緒に最期を看取ってもらいます。今受け止めることができなくても将来きっと父親が最期まで力の限り頑張ったことを誇りに思います。生きていくうえでの糧になります」と。

そこで、由美さんと一緒に二人の息子さんに話をしました。私が、「あまり時間がないので最期までなるべくお父さんのそばにいてあげてね。それからおかあさんのこと守ってね」と言うと、真治さんがちょっと笑みを浮かべたのです。はっとした私は「もしかしてお父さんに頼まれた？」と聞くと二人の息子さんは見つめあって頷きました。どの時だったのか、新井さんは、ちゃんと息子さんたちに由美子さんのことを託していたのです。二つ目の男同士の約束です。

臨終

翌朝、新井さんはあの世に旅立ちました。私は、由美子さんと新井さんのお体を拭いて、ご本人のお気に入り洋服を着て頂きました。

穏やかな凜とした表情でした。そこで、はじめて由美子さんが涙をみせました。思わず看護師と抱き合って泣きました。

「家で最期を迎えることができて良かった。ほんとうによかった」と。

私はたったまだ5日間しか経っていないのだと気づいて愕然としました。ひと月ほどの時間の流れがあったように感じたからです。それだけ命の終わりという凝縮した時間のなかで、ともに過ごした人々との関係性が深く深くつながりあったということなのでしょう。

新井さんは強い人でした。奥様も強い人でした。そして二人の息子さんも。強い絆で結ばれたご家族でした。

新井さんは、住み慣れた場所で家族や友人によって彩られ豊かな時を過ごされました。

そしてなによりこれからも生きていくご家族に夫として、父親としての役割を見事に果たされたと思います。



新連載：てくてく物語 <その3>

『定期巡回てくてく24』(定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業)の活動内容の一端を連載でお伝えしています

1年間、365日、1,100回訪問しました！

利用第1号の真知子さん

昨年10月1日から開始した『てくてく24』。一日目の利用者は3名でした。その中の一人真知子さん(仮名、70歳代後半、女性、要介護2)は、1年経過した今でも元気で自宅で一人暮らしを続けています。

真知子さん宅を訪問した回数は、この一年間に1,100回！！最低一日3回(週1回のデイサービスの日は2回の訪問、時に臨時の訪問も追加)一日の休みもなく訪問し続けています。

長い間、一人暮らし

真知さんは、山梨県内で生まれ育ったそうです。結婚と同時に北杜市に住むように。子どもさんはいらっしゃるのですが、精一杯の支援はありますが、様々な事情で、ご自分でしっかりと暮らしていたそうです。数年前から認知症を患い、コンセントを全部抜いてしまうので、冷蔵庫など電気製品が使用できないとか、食事は作れない、外出すれば戻れないなど、一人暮らしの限界かと心配されていました。トイレは自立です。(長谷川式スケールたぶん1点)(諸事情で本人が使用できる金銭はわずか)

1日3回の食事の保障

定期巡回サービスの依頼の主な内容は次の通り。

- ①一日3回の食事の保障(提供)
- ②安否確認…時々外出し戻れない
- ③薬の内服…確実な内服の支援が必要。
- ④寒さ・暑さ対策…毎夕の湯たんぽ持参等
- ④洗濯・掃除・その他

「まあ！おいしい！」、体重2kg増加

初期は、とにかく1日3回の食事の提供のために訪問。一日数百円の予算でどれだけの食事を確保できるか。フードバンクのように、職員が栽培した野

菜や果物などを提供し、持参させていただいたり(ケアマネ・家族了解のもとで)、スーパーなどで安くなる時間帯を把握して購入するなど工夫。

真知さんは、食事を持参するたびに、「まあ、おいしそう！ うれしいわ！ いただいていい？」と、美味しそうにたくさん召し上がってくださいます。

1か月で体重が2Kg 増えました。

定期巡回サービスだけでいいのか

「てくてく」のサービスで、確かに、食事の確保や安否確認など、いわば『生存の保障』はできるようになったのですが、果たしてそれだけいいのだろうか。ケアマネの方などと検討しました。真知さんにかかわるのが、ほとんどが「てくてく」の職員なのです。他の人とのかわりや入浴などのために、週1回のデイサービスを利用することになりました。おしやれしてお出かけする場合は貴重です。

“不定期訪問”というプレゼント

「てくてく」のサービスで、短時間で頻繁な訪問支援はできますが、難しいのが『時間をかけた掃除』『大物の洗濯』『散歩・外出支援』など。生活には欠かせない支援。それを当法人では、『不定期訪問』として位置づけるようにしました。職員の空き時間を利用した支援です。

時には、美容院同行、外食同行も。十分にはできていないかもしれませんが、試みました。

定期巡回サービスの可能性

実は、真知さんは病状の変化で数日間入院したことがあります。しかし日常的に看護職が定期訪問を担当していることもあり、早期発見、早期退院ができました。ご本人・ご家族が希望する(それ以外選択肢がない)自宅での生活の継続を、生存の保障だけではなく、より豊かな生活・生き方を応援できる貴重なサービスだと思います。

新規事業「我がままハウス山吹」 寄付募集！！

国土交通省の「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」の補助対象に選定された仮称
「支援付き共生サロン」(通称『我がままハウス山吹』)の成功のためにご寄付を！！

一般社団法人だんだん会は、営利法人ではありません。地域にとって必要なサービスを作り上げることを目的にしています。ぜひ、ご協力を！

当法人は、加齢や病気・障害があっても、住みたい地域で自分らしく暮らし続けられる地域づくりをめざし、また、人権を尊重した良質な医療と看護・介護・福祉を実現するために、地域住民と力を合わせ住民の保健福祉の向上に寄与することを目的に設立されました。さらに、人々が豊かな自然環境の中で、心身健康に幸福を実感して生きようとする取り組みをしていきます。

今回の寄付募集の目的は、2019年春開設予定の『わがままハウス山吹』(多機能型シェアハウス)(北杜市小淵沢)の開設です。(詳細は、ホームページ参照)

＜寄付の申込＞

別紙「寄付申込書」(ホームページ参照)に必要事項を記入の上、下記まで郵送・FAX等でお申込みください。

＜申込先・問い合わせ先＞

〒408-0001

山梨県北杜市高根町長澤 2412 番地 1 一般社団法人だんだん会 基金・寄付係

TEL0551-45-9566 FAX0551-45-9568

＜寄付の払込＞

寄付の払込先は下記のとおりです。払込手数料は申し訳ありませんが、寄付者負担でお願いいたします。

- ・口座名義 一般社団法人だんだん会 理事長 宮崎和加子
- ・振込先 山梨中央銀行 高根支店 普通口座 173654



◆超高齢でも、要介護でも、終末期でも、安心して暮らせる
シェアハウスです。

◆日中は、寄り添いスタッフが在宅し、いっしょに過ごし見
守ります。

◆住民主体でのサロン活動も実施します。

暖かい居心地のいい空間をみんなで作り上げましょう！

応援します！ 手伝います！ 寄付します！

表紙の写真！ 「からまつ会」です

からまつ会 滝沢清次氏



昼の月 (木曽駒ヶ岳 滝沢清次)

だんだん便り掲載の表紙写真を提供している「からまつ会」です。写真を趣味とする 70 歳代前後の 10 人ほどが自分の作品を持ち寄っては、例会をする日野春小学校でわいわいと鑑賞しながら感想を交歓しています。みんな個性豊かで写真も多様。

八ヶ岳周辺の魅力に惹かれて首都圏などから移り住み、山や花などに興味を持つ人も多くて八ヶ岳南麓の春夏秋冬の風景が持ち寄られます。また年に何回かは写真展や撮影会を企画して刺激しあいます。だんだん便りも良い刺激になっているようで、話題になっています。この便りの読者の皆さん、掲載された写真の感想など(辛口も歓迎)を寄せていただけたら私たちも励みになります。

ところで「あんあん」「てくてく24」「わいわい白州」オレンジサロンわいわい長坂・白州」と、あれよあれよという間に発展して「シェアハウス山吹(仮)」を準備中ということで、このエネルギーはいったいどこから生まれるのだろうと目を見張ります。だんだん便りでは一人暮らしの生き方・逝き方がリアルに伝えられて、最期を迎える様子も目に浮かび、様々なことを考えさせられています。だんだん会が果たしている役割は、これからどんどん大きくなるでしょう。からまつ会の会員として共感し、応援しています。

